

編集後記

*「麒麟」第十二号をお届けする。今号は、全三篇と数の上ではややさびしいが、いずれも力作、熟読いただきたい。

*かく言う編集子も今回は諸事情にてパス。次号には是非ともと思っている。

*その次号は、大場恒明先生の御退任記念号。「麒麟」のメンバー全員が力作をもってこれまでの大場恒明先生の数々の御学恩にお応えせねばなるまい。べ切はいつもよりはやめにと思っている。

*大学が冬の時代を迎えているせいもあって、大学全体がサービスを中心としての教育に偏重しているように思われる。ただし、研究を放棄しての、教える技術にたよった教育はむなし。決して日本の未来を担う、有為なる若者を世に送り出すことにならないであろう。まず、教員の一人一人が原点に帰って自らの研究に勤しむことである。その研究成果を踏まえての教育こそが大学における真の教育ではあるまいか。空疎なサービス教育はすぐにメツキがはげる。

*「麒麟」のメンバー一人一人がこのことを十分に自戒して、真の大学教育を目指そうではないか。

*編集子はこちらばかりく子規を中心とした近代俳句の研究に夢中になっているが、もう一度俳諧研究にも挑戦しなければと思っている。とにかく次号を期したい。

*御多忙の中を執筆いただいた各位に心より御礼申し上げます。

(鬼ヶ城)

会 員 名 簿

榎	本	誠
大	場	恒
小	澤	幸
加	藤	良
金	谷	徳
鳥	居	律
廣	田	一
復	本	郎